

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成26年4月3日 (2014.4.3)

【公開番号】特開2012-208342(P2012-208342A)

【公開日】平成24年10月25日 (2012.10.25)

【年通号数】公開・登録公報2012-044

【出願番号】特願2011-74348(P2011-74348)

【国際特許分類】

G 0 9 G 5/00 (2006.01)

G 0 9 G 3/20 (2006.01)

H 0 4 N 5/14 (2006.01)

【 F I 】

G 0 9 G 5/00 5 5 0 P

G 0 9 G 5/00 5 5 0 R

G 0 9 G 3/20 6 3 1 B

G 0 9 G 3/20 6 1 2 L

G 0 9 G 3/20 6 3 3 G

G 0 9 G 3/20 6 6 0 U

H 0 4 N 5/14 Z

【手続補正書】

【提出日】平成26年2月14日 (2014.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 9 】

読出制御部 2 2 のスキュー補償部 2 2 1 は、信号処理回路を複数用いたマルチチップ構成で映像表示を行う場合、各信号処理回路間で入力映像信号のスキューを生じても、このスキューによる誤動作を防止する。スキュー補償部 2 2 1 は、信号処理回路制御部 4 0 から供給された水平同期信号 E x t \_H と垂直同期信号 E x t \_V とフレーム信号 E x t \_FLD に基づき、信号処理後の映像信号を各信号処理回路から位相差を少なくして出力できるようにタイミングを調整する。スキュー補償部 2 2 1 は、タイミング調整後の各信号を信号選択部 2 2 2 に出力する。例えば各信号処理回路間でシステムクロックの最大 4 クロック分のスキューが発生する場合、水平同期信号 E x t \_H を 8 クロック分遅延させる。この場合、遅延後の水平同期信号 E x t \_H のタイミングは、最大 4 クロック分のスキューが発生しても、同じ垂直期間およびフィールド期間のタイミングとなる。したがって、遅延した水平同期信号 E x t \_H のエッジで垂直同期信号 E x t \_V とフレーム信号 E x t \_FLD の取り込みを行い、新たな垂直同期信号 E x t \_V とフレーム信号 E x t \_FLD として出力する。このようにすれば、各信号処理回路間でスキューが発生しても、スキューの影響を防止できる。また、水平同期信号 E x t \_H の遅延は、発振器 4 5 -A からのシステムクロック信号 S C L K に基づいて行うことで、信号処理回路制御部 4 0 から水平同期信号 E x t \_H と垂直同期信号 E x t \_V とフレーム信号 E x t \_FLD と共にクロック信号を供給する必要がない。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 9】

